

社会調査の基礎

専門教育科目 / 2 単位 / T 授業

担当教員 三宮 基裕

■使用テキスト

社会福祉士養成講座編集委員会（編）『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎 第3版』
中央法規出版 2013

◆参考テキスト

講義概要・一般目標

「社会調査法」では、社会調査の概要を皆さんは学びます。これからの社会福祉士にとって調査法の理解は非常に重要なものになってくる。受講生諸君らは、この科目を受講して量的研究と質的研究をしっかりと学ぶこととなります。調査法は統計学を基礎にはいるが、数字が苦手な受講生でも無理はない。テキストでは統計学でカバーするような内容も含まれている。統計量の計算（88～107 頁）の詳細にわたる理解は要求されない。

添削課題は、第2章から6章までをカバーする。第1章は添削課題と単位認定試験でカバーしないが一読す

到達目標

- 1) 社会調査の重要性を理解する
- 2) 量的研究と質的研究の特徴を説明できる
- 3) 国試に合格レベルの知識を得る

評価方法

科目単位認定試験により評価する。

学習指導

第1章 社会福祉と社会調査

この章のポイント

社会福祉と社会調査との関係を社会調査の歴史の概観を通して学ぶ。

第2章 社会調査の概要

この章のポイント

この章では、社会調査の意義・目的から始め、社会調査を大まかに学び、新しく施行された統計法について学ぶ（重要）。

キーワード（概念）：手続きの合理的な可視化、情報の非対称性の低減、量的データ、質的データ、サンプリング、テキストマイニング、統計法、新統計法、指定統計、基幹統計、加工統計、調査票情報の二次利用

第3章 量的調査の方法

この章のポイント

社会福祉領域の弱点である量的研究を学ぶ。社会福祉の専門家でも全くお手上げの人が多い分野である。しっかりと学習して頂きたい。統計の計算が69～91頁でカバーされているが、この個所については受講生諸君には概念的理解以上は期待されない。

キーワード（概念）：母集団、全数調査、悉皆調査、標本、標本調査、母統計量、標本統計量、無作為抽出、層化抽出法、二段抽出法、層別二段抽出法、標本誤差、非標本誤差、情報の代表性、横断データ、クロスセクショナルデータ、縦断データ、時系列調査、自計式調査、他計式調査、キャリアオーバー効果、ワーディング、ダブルバーレル質問、パーソナルとインパーソナルな質問、信頼性、妥当性、クロンバックのアルファ係数、訪問面接調査、郵送調査、留め置き調査、欠損値、変数の尺度水準、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度、度数分布表、クロス集計、ヒストグラム、散布図、標本平均、中央値、最頻値、パーセンタイル、四分位数、四分位範囲、標準偏差、データの歪み（歪度）、尖度、回帰係数、独立変数、従属変数、ピアソンの積率相関係数、順位相関係数（ケンドールの τ ）、コーエンの K 係数、有意とは、コーホート調査、信頼区間

第4章 質的調査の方法

この章のポイント

質的調査の特徴、その手続き、調査方法、データ分析、さらには発表までを詳しく学ぶ。この章は、第3章と対比させてしっかりと学習して頂きたい。

キーワード（概念）：質的調査、質的データ、イーミック、エミック（テキスト外）、トライアングレーション、メンバーチェック、フィールド、個別インタビュー、構造化インタビュー、半構造化インタビュー、非構造化インタビュー、グループインタビュー、フォーカスインタビュー、参与観察、エスノグラフィー、アクションリサーチ、個別インタビューの回数と人数、インタビューガイド、記録機器、場所、インタビューの技法、グラウンデッドセリ、KJ法、テープ起こし、逐語記録、データの読み込み、コーディング、データの切片化、ラベル付け、データの結合、図解、メンバーチェック、ピアチェック、方法セクションに含めるもの、代表事例の取り扱い

第5章 社会調査における倫理と個人情報保護

この章のポイント

この章では、研究者が守るべき倫理と個人情報の保護のために何をすべきかを学ぶ。社会調査の時代において非常に重要なテーマである。

キーワード（概念）：研究倫理、プライバシー保護、社会調査倫理綱領、倫理委員会、個人情報の管理方法

第6章 社会調査の実施にあたってのITの活用方法

この章のポイント

社会調査とIT技術の利用について学ぶ。インターネット利用のデータ収集については注意を払うこと。

キーワード（概念）：インターネット利用のデータ収集の問題点